

視聴覚教育時報

No.743 2024年 4月号

contents

- ▽令和6年度 「第1回全視連常任理事会」を文書により実施
- ▽令和6年度 視聴覚ライブラリー所有の視聴覚教材の移管や廃棄について
- ▽令和6年度 全視連「視聴覚教育功労者表彰」の推薦について
- ▽令和6年度 専門委員について
- ▽「視聴覚センター・ライブラリー一覧〈令和5年度版〉」を読む
—視聴覚センター・ライブラリーの現況と傾向—
- ▽えすけーぷ

▽令和6年度 「第1回全視連常任理事会」を文書により実施

全視連の第1回常任理事会が去る4月15日付けの文書により実施されました。昨年同様に文書による承認に代えることといたしました。議案については4月22日を期限として審議・回答をいただき、すべての常任理事の方々より承認いただきました。審議いただいた議案は下記の通りです。

- 第1号議案 令和5年度事業報告書（案）
- 第2号議案 令和5年度収支決算書（案）

- 第3号議案 令和6年度事業計画書（案）
- 第4号議案 令和6年度収支予算書（案）

なお、これらの議案については、決算報告の監査を経て、5月に各加盟団体の理事宛に第1回文書理事会として提出され、審議いただくことになっています。

▽令和6年度 視聴覚ライブラリー所有の視聴覚教材の移管や廃棄について

組織の統廃合や視聴覚教材の老朽化等により、他の教育施設へ教材を移管したり、廃棄処分を行うこととなります。昭和61年に、映像教材の権利者団体（（公社）映像文化製作者連盟：以下映文連）と全視連が「映画の著

作物の複製物の貸与に係わる補償金の扱いについて」の覚書きを取り交わしましたが、その後の双方の話し合いにおいて、ライブラリーが保有する視聴覚教材を移管または廃棄する場合は、平成23年度以降より、権利者団

体に通知することとなり、今年度で 14 年目を迎えました。

視聴覚教材（フィルム・テープ・ディスク）を、施設の統合や廃止に伴い他教育施設に移管する場合、または廃棄処分しようとする場合、その視聴覚教材の作品名などを「視聴覚教材の移管届け」「視聴覚教材の廃棄届け」に記入し、加盟団体を通じ当連盟に提出し、当連盟が映文

連にそれらを通知します。

<提出対象年度>

令和6年度間（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

※届け出書式は下記の全視連HPよりダウンロード可。

関係書類一式ダウンロード

http://www.zenshi.jp/files/ikan_haiki_2024.zip

▽令和6年度 全視連「視聴覚教育功労者表彰」の推薦について

例年実施している全視連の「視聴覚教育功労者表彰」制度も本年度で第 27 回を数えることとなりました。4 月 12 日付けの文書により、各加盟団体長宛および各都道府県・指定都市教育委員会教育長宛に依頼文を発送しました。

推薦にあたっては「表彰要項」「推薦要項」を参照の上、7月8日（月）までに「様式1～3」に必要事項を記入の上、本連盟にご推薦いただくこととなっております（各種データはHPよりダウンロード可）。

<http://www.zenshi.jp/korosha.html>

<表彰の基準>

(1) 次の各号いずれかに該当すること。

- 多年にわたり、社会教育における地域の視聴覚教育実践、普及または研究開発に努力し、視聴覚教育の振興に多大な貢献をした者
- 全国または地域の社会教育における視聴覚教育関係団体において、その活動の推進、運営の改善に大きく貢献をした者

(2) 社会教育における視聴覚教育の振興に携わった年数が通算 10 年以上あること。

(3) 年齢が 50 歳以上の者であること。

<候補者推薦対象の「業務」、「活動」>

- ① 視聴覚教育行政の専門業務
- ② 視聴覚センター・ライブラリーまたは相当施設の運営
- ③ 視聴覚教育関係施設における資料制作や収集、保管、調査研究、展示、教育活動等
- ④ 視聴覚教育に関する意識の高揚、啓発及び活動の推進
- ⑤ 視聴覚活動団体の運営と活動の推進
- ⑥ 社会教育活動におけるボランティアの育成またはボランティア活動の推進

<表彰について>

視聴覚教育総合全国大会の時期に合わせて行う。今年度の大会は令和6年11月9日（土）にオンラインで開催のため、同大会の全体会にて各団体ごとに功労者の紹介を行う予定。

▽令和6年度 専門委員について

全視連の事業を協力・推進いただく専門委員制度は、平成13年度から設けたもので、全国をブロック別に分け委員を選出し、今年度は下記の9名の方々に就任いただきました。

＜専門委員長＞

▽村上長彦（全国視聴覚教育連盟専門委員長）

＜副専門委員長＞

▽丸山裕輔（新潟県五泉市立村松小学校教諭）

＜専門委員＞

▽高橋敏幸（茨城県視聴覚教育振興会副会長）

▽大塚貴士（千葉県総合教育センター）

▽間宮智也（仙台市教育局生涯学習課）

▽神 崇尋（岩手県教育委員会事務局盛岡教育事務所）

▽塩野谷直充（埼玉県春日部市視聴覚センター）

▽小柳真一（栃木県総合教育センター）

▽高見晴彦（兵庫県丹波篠山市視聴覚ライブラリー）

（アンダーライン新規就任）

▽「視聴覚センター・ライブラリー一覽〈令和5年度版〉」を読む —視聴覚センター・ライブラリーの現況と傾向—

各都道府県教育委員会及び視聴覚教育関連施設の協力を頂き「視聴覚センター・ライブラリー一覽-令和5年度版-」が、(一財)日本視聴覚教育協会より昨年12月に刊行されました（A4判・81頁 2,750円）。

そこで、同一覽を基に、視聴覚センター・ライブラリーの現状や傾向について読み取って見ました。新型コロナウイルス感染症対策として、社会教育におけるテレワークやオンライン学習等の普及は、視聴覚センター・ライブラリーにも新たな方向性が希求される時代に入っ

ています。

視聴覚センター・ライブラリーの現況や傾向を読み取る視点として、視聴覚センター・ライブラリーの設置状況や人的体制及び財政状況、教材提供及び制作機能としての市販教材保有数及び貸出状況、自作教材保有数とネット配信状況、さらに研修・講習実施状況、情報提供機能等を中心に読み取って見ました。

詳細については、月刊「視聴覚教育」令和6年3月号の記事（全8頁）を下記よりダウンロードの上、参照願います。

＜月刊「視聴覚教育」令和6年3月号＞

<http://upl.javea.or.jp/file/upload.cgi?get=00471>

＜視聴覚センター・ライブラリー一覽HP＞

<https://www.javea.or.jp/pub/lib.html>



▽えすけーぷ

今年の2月に新潟県長岡市で「AI×図書館ハッカソン@長岡」という取り組みが行われたそうです。簡単に言うと、図書館の蔵書をスキャンして生成AIのデータセットを作ろうという試みです。

長岡市役所ではAI人材の育成に力を入れており、行政事務でも定型的なものの自動化から始まり、AIによる非定型業務の自動化を考えているとのことでした。

そうした取り組みがまずあって、全市的な取り組みとしてAI人材の育成を見据えたイベント実施ということで地に足が着いた取り組みと言えるでしょう。

「AI×図書館ハッカソン@長岡」では、工業高校の生徒や高専の生徒も含めた16名が4つのチームに分かれて、図書館の蔵書から1000ページ以上スキャンして、学習またはデータセットの生成に使用するというルールで生成AIツールを作ったそうです。

4チームが開発したAIは、「顔の特徴や表情をもとにストーリーと挿絵を作ってくれるAI」「本の情報（目次など）からキャラクター画像を出力するAI」「難しい本の内容を絵本のように分かりやすく説明するAI」「子ども向けの文章生成AI」とどれも興味深い内容です。しかし、生成AIツールの成果以上に興味深いことは、著作物である本を素材としてAIツールを作成するという試みです。著作権に

ついては、著作権に詳しい弁護士にも相談し、どういう形でやったら完全に合法と言えるのか、というところまでレクチャーしてもらったことは言われていますが、具体的にどうクリアしたのかをもっと知りたいところです。

「AI×図書館ハッカソン@長岡」の様子を見ながら、例えば様々な16ミリフィルムの映像を利用してテーマに沿った映像資料作りをするといった取り組みができないだろうか、というようなことも考えました。その際にも著作権をどうクリアするか、著作権者の許諾をどのように取るか、といったことを考えなければなりません。

もう一つは、若い世代から高齢者に至るまでの様々な市民が参画した取り組みを作り出すことの重要性です。行政がどんなにお金をかけて業者に依頼して作り出しても、市民が一方的に受けるだけの存在となってしまっただけは一過性のものとなってしまってしまうでしょう。

全視連で行った事例報告や情報交換においても、16ミリフィルムの活用や自作教材の制作を活発に行っている岩手県や宇都宮市、丹波篠山市ではボランティアの活動が活発に行われています。よくボランティアの活用という言い方がされますが、行政が活用するのではなく、行政とボランティア、行政と市民が協働するという関係性の中で充実した視聴覚ライブラリーが育っていくのではないのでしょうか。（T. M）

全国視聴覚教育連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-10-11 虎ノ門PFビル

TEL：03-3431-2186 / Fax：03-3431-2192

HP：<http://www.zenshi.jp/>

Mail：info@zenshi.jp

東映 教育ソフト Line-up!

小学校道徳・特別活動・防犯

小学生の情報モラル教室 スマホを正しく活用しよう!

- 1巻 学ぼう! スマホのトラブルを防ぐマナーとルール**
2巻 考えよう! スマホを使った上手なコミュニケーション

1巻で「スマホと個人情報の守り方」「ネットの課金トラブル」「スマホ依存症」、2巻で「ネットいじめ」「SNSでの出会い」のテーマを取り上げ、それぞれドラマ編と解説編で構成。子供たちに、ドラマの中の出来事を自分だったらどうするかと考えさせ、トラブルにつながる行動の自覚を促し、正しい判断力が育成されることを狙いとします。(1巻 約24分 2巻 約23分)

各巻 77,000円(税込) 2巻セット価格 143,000円(税込)
 学校特別価格各巻 38,500円(税込) 2巻セット学校特別価格 71,500円(税込)



中学校道徳・人権啓発

障害のある人の気持ち 私たちの一歩

中学生たちに車いすに乗ってもらい、車いすでの生活にはどのような困難や危険があるのか体験します。また、パラアスリートの方へのインタビューから、どんな手助けが必要とされているのか、私たちに何ができるのか考えていきます。(約18分)



字幕・副音声版付き

77,000円(税込)
 学校特別価格 38,500円(税込)

国際理解・国際貢献を考える ~台湾との絆~

東日本大震災での支援や、新型コロナウイルスへの対策など、日本と台湾は困った時に協力合ってきました。このような日本と台湾の絆を関係者のインタビューを交えて紹介し、国際理解・国際貢献について考えていきます。(約14分)



字幕版付き

77,000円(税込)
 学校特別価格 38,500円(税込)

防災

はなかつぱのぼうさいくんれん 「おかしもち」でいのちをまもろう

子供たちに大人気の「はなかつぱ」と仲間たちが登場する、幼児・小学生(低学年)向けの防災アニメーション教材です。「おかしもち」を合言葉に、地震が起きたときにどのように命を守る行動をとればよいか、学ぶことができる教材です。(約14分)



©2010 あきやまだだし/はなかつぱプロジェクト
 77,000円(税込) 学校特別価格 38,500円(税込)

道徳・平和教育

お父さんへの千羽鶴

ともえちゃんのお父さんは特攻隊員でした。千羽鶴に託された家族の祈りと、二度と帰れぬお父さんの想い。愛する家族と国を守るために亡くなったお父さんの姿から、平和の尊さ、家族の絆の大切さを子供たちに伝えます。(約14分)



原作 ときたひろし「お父さんへの千羽鶴」(展転社)

字幕版付き

77,000円(税込)
 学校特別価格 38,500円(税込)

お問い合わせ・チラシ請求は

TEL 03(3535)3631 FAX 03(3535)3632



<https://www.toei.co.jp/edu/>

←予告欄はこちら



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>